

2016年10月16日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 4章1～12節

説教：キリスト以外に救いはあるのか

あらすじ

ペテロとヨハネが宮に入ろうとしたとき、足なえの男が施しを求めて声をかけてきました。ペテロが、「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言うと、その男は自分の足で立って歩き出します。そして、ペテロは驚いて集まってきた人々に、三つのことを語ります。一つ目。あなたがたはあのいのちの君であるイエスを殺した。二つ目。神はこの方を死者の中からよみがえらせました。そして三つ目は、あなたがたは神のひとり子を殺した罪を悔い改めて、神に立ち返りなさい。

ペテロの話聞くまで人々は、足なえの男が一瞬にして直ったのはペテロの信仰のおかげなのかと、まるで他人事のように思っていました。ところが、ペテロの口から出て来たのは、考えたこともなかった意外な事実です。自分たちが本当に神のひとり子を殺したと言うのであれば、大変なことです。このままでは神のさばきから逃れられない。彼らも旧約聖書を信じている人たちですから、そのことを考えざるを得ません。それが前回までのあらすじです。

今日の箇所に入ります。ペテロの話聞いてどうしようと人々が迷っていたとき、目の前でペテロとヨハネが警察に拘束されてしまいます。宮の中で違法な宗教活動をおこなったという理由です。これを見て人々はどう反応するか。普通なら、「警察に捕まるような男の話は信用できない」、と言って何事もなかったようにその場を去るでしょう。と

ころが、4節にこうあります。「しかし、みことばを聞いた人々が、大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。」

なぜ人々は信じたのか。ペテロはこのあと尋問されていますが、そこで何を語ったのか。そのことを見ていきます。

1 イエスを殺した人たち

1) カヤパ アンナスの婿

神殿は、ふだん祭司たちや宮の守衛長が管理していて、事故や騒動が起きないように監視しています。そんななか、足のなえた人がいやされたとのうわさが広まり、ペテロの所に大ぜいの人々がどっと押し寄せていったのですから、管理する側としては、黙って見ているわけにはいきません。責任者自ら出てきてことを処理することにします。出てきたのは、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人であったと1節にあり、そして6節にはもっと詳しくアンナス、カヤパという名前も記されています。いったい彼らは何者であったのか。その中のカヤパとサドカイ人に目を留めます。

まずカヤパです。ここで初めてで来る名前ではありません。イエスが逮捕されて一番最初に連れて行かれのはアンナスの家でしたが、そのアンナスの娘婿がカヤパ。カヤパはイエス殺害計画に最初から関わっていたと、他の箇所に書かれています。

ちなみに、イエスがアンナスの家に連れて行かれて尋問されていたとき、ペテロはどこにいたか。闇夜に紛れてアンナスの家の庭にいました。彼がイエスを三度否定した場所で

す。よく見ると今日の聖書の箇所では、イエスを除いて、あのイエス逮捕の晩の主要なメンバーがもう一度勢揃いしたことに気がつきます。

2) サドカイ人

続いてサドカイ人について。彼らも宗教指導者でした。しかし他のパリサイ派とか律法学者と大きく違う点の一つがありました。彼らは、死人がよみがえるということは信じていない。なぜ信じないかという、これは今の時代の考え方によく似ている。「そんなの非科学的だから。ありえない。」そう考えていました。イエスのことも、自分たちの立場を危うくする者として憎んでおりました。彼らもイエスを十字架で殺したものの仲間ということになります。

そんな背景があるところへ、ペテロが堂々と死者の復活のことを語り出すのですから、サドカイ派にとっては非常に都合が悪い。それで彼らもペテロの口を封じるために出てきた、ということのようです。

2 ペテロ

1) 聖霊に満たされて (ルカ 12:11~12)

一晩拘束されたペテロは翌日、大祭司アンナス、カヤパの前に立たされ、イエスが受けたように、ペテロも彼らから尋問を受けることになりました。当然ペテロは、イエスが逮捕されたあの晩のことを思い出さずにはいられなかったでしょう。イエスは大祭司アンナスの庭で尋問を受け、その後十字架で殺されました。ペテロここで何を言うべきか、一晩頭の中で考えていたはずです。

いよいよ尋問が始まります。8 節。「そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに

言った。」ペテロが尋問に答えようとしたとき、聖霊が彼を満たしたとあります。ここを読んで、イエスがあらかじめこのように語っていたことを思い出します。「また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」(ルカ 12 章 11, 12 節)

その約束のとおりペテロは聖霊の励ましを受けながら語っていきます。では何を語ったのか。次にそのことを見ていきます。

2) あなたがたはキリストを十字架につけた

10 節の後半から 11 節。「この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。『あなたがたの家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった』というのはこの方のことです。」

自分の答え方一つで、助かるのかそれとも殺されるのか大きな分かれ目となる場面で彼は三つのことを語ります。

まず一つ目。「あなたがたはイエスを十字架につけて殺した」と言い放ちます。それだけではなく、イスラエルの人であれば誰も知っている詩篇 118 篇 22 節のみことばを引用し、このみことばのとおりのことをあなたがたはしてしまったのだと、強く迫ります。自分のいのちが大切だと思うなら、こんなとき相手を怒らせるようなことは言わないでしょう。ところがペテロは迷うことなく相手が聞きたくない話を語り、ぐいぐいと核心に迫っていきます。

3) しかし神はキリストをよみがえらせた
そして二つ目に語ったことは、「神はナザレ人イエス・キリストを死者の中からよみがえらせた」ということでした。先ほども触れたとおりに、これはサドカイ派の人たちは復活を信じていません。ペテロのこのことばを聞いて、ますます腹を立てたはずです。

4) この方以外には救いはない
そして三つ目。12 節。「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちの救われるべき名は人に与えられていないからです。」

ペテロを尋問している人たちは、当然のことですが、イエスが救い主であることは認めません。イエス以外のところに救いがあると考えております。そんな人たちが、ペテロの口からイエス以外に救いはないと聞かされるのですから、またこれも腹が立つ話です。こうしてみると、ペテロは自分が死ぬことを覚悟しながら、ことごとく相手の感情を逆撫でするようなことを語っていたことがわかります。かつて死ぬことを恐れていたパウロでしたが、いまは違います。死ぬことも恐れず、この方以外には救いがないと語っています。

3 救いはどこにあるのか

1) 本当の救いは死の問題を取り扱う
でも本当にそうなのでしょうか。私は牧師の立場にありますが、もしキリスト以外に救いがあるというのなら、もちろん皆さんは自由にそちらを信じてかまわない、どうぞ好きな方に行っていただきたい。でもキリスト以外に救いがあるのかはとりあえず別して、少

なくとも考えなければならないのは、キリストに救いがあると言えるのはなぜか。そこははっきりとしておかなければなりません。

世の中にはいろいろな悩みがあります。でも、突き詰めていけばすべては一つの問題に集約されるはず。なにかというと、人は必ず死ぬという問題です。死んだ者を取り戻すことができない。そこで私たちは絶望している。この問題。救われるというのであるなら、この問題に対してははっきりと解決を提示できなければならないはず。もしできなければ、それは救いでも何でもない。しかしもしはっきりと解決を提示しているのであれば、それが本物の救いということになります。

例えば日本人の多くが信じている八百万の神々はどうでしょう。死とか罪の問題についてきちんとした解決を示しているのか。少なくとも私は知らない。

ペテロは何を語ったか。死の問題、その原因である罪の問題、そして救いについて語りました。永遠のいのちを与えてくださる神に立ち返り、救われなさいと勧めました。キリストの名前以外に救いはないとまで言い切りました。ほんとうなののでしょうか。問題はそこです。これはひとり一人が判断しなければなりません。

2) 大きく変えられたペテロ

でも考える手がかりはあります。このように語っているペテロのことです。イエスが逮捕された晩、おびえていたペテロと今のペテロ、比べてみてください。これが同じ人物かと疑うほどの変わりようです。以前は死んだ者よみがえるなど信じていません。十字架に救いがあるなどまったく信じていない。それ

がどうしてこんなに変わるのか。不思議です。ペテロが心を入れ替えて、もうあのようなことはしませんと決心したからでしょうか。ペテロが努力して自分で自分を変えたのでしょうか。いいえ、そうではない。ペテロは自分で自分を変えることなどできないと心の底から自覚しています。自分はイエスを見捨てて十字架で殺した者であることを自覚しています。

そんなペテロがどうしてこのように変わったのか。よみがえられたイエスに出会ったからです。イエスを見捨てた自分にもイエスはよみがえられた姿を示してくださった。こんな情けなくて弱い自分でも、神は赦してくださった。そのとき彼は大きく変えられていきました。もう死は恐ろしいものではないことを知りました。だからここで彼は自分を殺そうとする者の前で堂々と語る事ができる。

それも彼ひとりが語るのではない。聖霊が励ましを受けています。その聖霊はどこから来たか。天からです。聖霊はだれが送ったか。よみがえられた主です。主がもしよみがえられなかったのなら、聖霊は来ない。聖霊に満たされていること自体が、主のよみがえりを証しています。主はこのようにしてペテロを励ましています。

私たちもおなじです。いつも言います。私たちはなぜ今日ここに座っているのか。こんな天気の良い日になぜ教会に来るのか。不思議なことです。主が生きておられて、私たちに聖霊を送ってくださっているからではないですか。

心許ない言い方かもしれませんが、この方以外に救いはないのかどうか、私は知りません。しかし、こうは言える。ペテロの話を聞

いてこの日、五千人が救われました。イエスこそ救いの御名であると確信した人たちがいました。その事実にも励まされます。この方こそ罪人を死から救ってくださる救い主である。私たちもそのことを告白しながら歩みたいと願います。